

劇評

リミニ・プロトコル

作・構成：リミニ・プロトコル、演出：ダニエル・ヴェッツェル
100%シリーズ

ライヴの統計—普段は、色とりどりのカーヴや棒、グラフィックやダイアグラムといった形で、パーソナルでない結果になる統計が、ここでは、表情を獲得する。

「ヴェルト(世界)」、2011年『100%ケルン』評

感銘を受けた。リミニ・プロトコルは都市の脈拍を感じ取る。言葉の力豊かに、人々を舞台の上へ上らせる。

「ライニッシェ・ポスト」、2011年『100%ケルン』評

約90分で、この作品は親密さを、また100人の見知らぬ人々に対する、最高の理解を生み出した。

「オージーシアター」、2012年『100%メルボルン』評

数学の分野を劇にできるのか？ 劇場で人口学の授業ができるのか？ そして、両方を愉快な一晩へと組み合わせられるのか？ 答えはイエスだ。

「ノイエ・チューリッシャー・ツァイトウング」、2012年『100%チューリヒ』評

100人全員に、隠れている、物語や運命が、その肌の下に広がる。いまや、彼らは違って見える。彼らを知ったからだ。

「ノイエ・プレッセ」、2012年『100%ブラウンシュヴァイク』評

ヘルガルト・ハウクにとって、100%ロンドンとは、観衆にとってのあるきっかけであり、それは互いを結びつけ、互いに質問をし合わせる。日常なら決してするチャンスのない質問だ。「これはドキュメンタリー演劇です」と彼女は言う。「上演で、あなたが住む都市の横断面が舞台上に見えます」

「ガーディアン」、2012年『100%ロンドン』評